あひるさん　の　くつ

村山籌子

青空文庫

ある時、きりぎりすさんが、靴屋(くつや)さんをはじめることになりました。

「どんな形の靴でもおのぞみしだいにつくります。」といふ看板を見てやつてきたのが、あひるさんです。

きりぎりすさんはあひるさんの足をはかつて、夜もねないで靴を一足こしらへて、あひるさんのところに持つてゆきました。

あひるさんは大変おしやれでしたから、自分の足の恰好(かっかう)のことは棚(たな)へあげて、きりぎりすさんのこしらへてきた靴を一目見ていひました。

「まあ、こんな変な恰好の靴は牛さんにでも買つてもらふがいゝ。」きりぎりすさんは大変こまりましたけれども仕方がありません。しほ〳〵とその靴を持つてかへりました。そして、それをお店へならべておきましたが、あんまり不恰好なものですから、だれも買つてくれません。おしまひには、そのうへへ埃(ほこり)がつもりつもつて、たう〳〵どこに靴があるのやらわからなくなりました。

× × ×

それから、三年ばかりたつたある晩に、あひるさんが自動車につて、きりぎりすさんの店のまへをとほりかゝりました。あひるさんは自働車の運転手になつたばかりでしたから、あんまり上手に自働車を動かすことができません。あつ、とおもふ間に、きりぎりすさんの店の中へ自動車がはいつてしまひました。そしてその拍子に埃の中にうづまつてゐた靴が飛びだしました。この物音で、きりぎりすさんが出てきました。そしていひました。

「この靴がお入用ですか。」あひるさんは、仕方なくまうしました。

「さうです。これを下さい。」

「ほんとに、丁度よくあなたの足にあひさうです。」ときりぎりすがいひました。あひるさんは顔を赤くしました。きりぎりすさんは、三年間ごろ〳〵してゐた靴がうれたので、どんなにうれしかつたでせう。けれども、その靴を、初めに注文したのが、このあひるさんだつたといふことに気がついたのはそれから一週間あとのことでした。

青空文庫情報

底本：「日本児童文学大系　第二六巻」ほるぷ出版
　　1978（昭和53）年11月30日初刷発行
底本の親本：「子供之友」婦人之友社
　　1928（昭和3）年6月
初出：「子供之友」婦人之友社
　　1928（昭和3）年6月
入力：菅野朋子
校正：noriko saito
2011年8月3日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

あひるさん　の　くつ

村山籌子

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/